

町田市里山環境活用保全計画
リーディングプロジェクト進捗状況確認
シート(2024年2月9日現在)

※評価について
◎:当初予定以上 ○:当初予定どおり △:当初予定を下回る ×:当初予定を大幅に遅れている

資料 3-1

エリア	プロジェクト	取組	2022年度				2023年度				備考
			実施計画	実績	評価	今後の予定	実施計画	実施内容	評価	今後の予定	
小山田エリア	里山を身近に体感するための場の整備	①交流回遊拠点を整備します	交流回遊拠点施設の機能の検討	・地域の住民とともにワークショップを開催し、小山田エリアにおける里山の現状と課題を踏まえた、交流回遊拠点施設の役割・機能について検討しています。(2023年3月、市として施設の役割や機能、整備候補地等の方向性を決定します)	○	・引き続き、地域住民や企業などと意見交換を行い、交流回遊拠点施設の基本構想を策定します。	交流回遊拠点施設の機能の検討	・交流回遊拠点施設の基本構想の策定に向け、事業者へのヒアリングを実施し事業採算性などの課題を洗い出すとともに、地域住民と事業者を交え、地域課題の解決につながる施設の役割について具体的に意見交換を行いました。しかしながら、事業者が参画しやすい事業スキームなどについて、引き続き検討を要することから、基本構想の策定に至りませんでした。	○	・事業スキームなどの課題解決に向けて、関連事業者へのサウンディング調査を実施します。事業者の参画につながる事業スキームの構築を図り、基本構想を策定します。	
		②里山環境を活用する場を整備します	里山環境を活用する場の選定、活用手法の検討	・地域住民などにより民有地を活用した取組が行われている「小山田おこしの森(小山田小学校北側山林)」に隣接する市有山林を再生し、一体的な活用を図ることとしました。 ・「小山田おこしの森」に隣接する市有山林の再生に必要な伐採木や資材の搬入を行う作業路を整備するための測量を実施しました。	○	・作業路の整備に向け、予備設計や地質調査などを行います。	里山環境を活用する場の選定、活用手法の検討	・作業路の整備に向け、隣接する地権者に複数のルート案を示して協議を行い、整備の方向性を決定しました。(重点事業1「必要なインフラ整備」の再掲)	○	・引き続き、作業路整備に向けて隣接地権者と協議のうえ測量を実施し、道路の線形を確定します。	
		③木材を活用できる場を提供します	木材活用場の検討	・木材の活用を図るために必要な設備や機能について企業へのヒアリングを実施しました。	○	・伐採した木材を貯める貯木場など必要な設備について、調査・検討します。 ・木材の加工品の販売や木工体験など、木材に触れ楽しむことができる場、交流回遊拠点施設の機能の一つとして検討します。 ・市内外の企業等へのヒアリングを実施し、木材の活用を効率的に行うための手法について検討します。	○	・地域住民との意見交換において、交流回遊拠点施設に木材などの里山の資源にふれ楽しむことができる機能として、工房を設置することとしました。また、関連事業者を交え工房の役割や機能、課題について整理しました。 ・事業者からのヒアリングを継続し、里山の木材活用のイメージを共有するとともに、実現に向けた課題について確認しました。	木材活用場の検討	・交流回遊拠点施設に整備する工房について、整理した課題の解決に向けて、関連事業者へのサウンディング調査を実施します。	
	農を活用した地域の賑わいゾーンの創出	—	調整	・地域の団体と協議し、野中谷戸周辺を候補地として選定。事業内容や事業実施の課題の洗い出しを行いました。	○	・野中谷戸周辺の賑わいゾーンの創出について、実現可能な事業内容と事業実施につながる課題解決の方策を地域団体とともに引き続き検討します。	試行	・地域団体の事情により中断していた野中谷戸を活用した賑わいゾーンの創出について、検討を再開しました。また、農をテーマとしたイベントの試行に向け検討しました。	△	・地域団体と検討・調整のうえ、2024年度のイベントの実施(試行)を目指します。	
	地域の課題解決につながる取組の推進	①環境の保全につながる事業を実施します ②(仮称)里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します ③散策ルートの再整備とマップの作製に取り組みます	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	①環境の保全につながる事業の実施	○	・各団体が実施する事業が継続し、里山環境の持続可能な保全につながるよう、必要な支援を行います。	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	①環境の保全につながる事業の実施 ・「鶴見川源流保水の森」において、主に小中学生を対象とした自然環境の保全や再生について学ぶ機会を提供しました。 ・「里山体験クラブ感謝祭 里山クリーンアップ大作戦」と称し、地域団体や地域の企業と協働し、木工体験や薪割り体験、薪窯によるピザづくりなど里山に触れ楽しむ機会を提供するとともに、里山の清掃活動を実施しました。(重点事業2「地域・団体等と連携した取組」の再掲) ②里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施 ・「里山体験クラブ感謝祭 里山クリーンアップ大作戦」と称し、地域団体や地域の企業と協働し、里山の清掃活動を行うとともに、木工体験や薪窯によるピザづくり体験など里山に触れ楽しむ機会を提供しました。(重点事業2「地域・団体等と連携した取組」の再掲)	○	・引き続き、地域住民や団体、企業と連携した取組を実施するとともに、必要な支援を行います。	

エリア	プロジェクト	取組	実施計画	実績	評価	今後の予定	実施計画	実施内容	評価	今後の予定	備考
小野路エリア	1 竹林の再生と活用	—	実施	・「鶴見川源流保水の森」において、クヌギの萌芽更新のための伐採などを体験イベントや里山を散策しヤブカンゾウ苗植え体験などのイベントを実施し、自然環境の保全や再生について学ぶ機会を提供しました。	○	・継続した事業の実施を図るため、事業の実施に必要な支援を行います。 ・加工食品(メンマ)生産の事業化に向けて、企業や地域団体とともに課題の洗い出しを行い、課題解決に向けた方策を検討します。	実施	・里山で活動している既存の団体と新たな取り組みについて協議し、新たに未活用の市有山林約17,000㎡の再生と活用を進めました。 (重点事業1「山林や竹林の再生・整備」の再掲) ・地域の団体と協働し、幼竹を活用したメンマづくりのワークショップ、市職員を対象としたメンマづくり体験会を実施しました。 ・商工会議所や市内事業者と連携し、幼竹を活用したメンマづくりを試行し、市内産メンマの事業化に向けた意見交換を行いました。 (重点事業1「多様な主体の連携による里山の活用」の再掲)	○	・事業の継続に向けて必要な支援を行います。 ・メンマづくりをはじめとする里山資源の活用について、事業者との意見交換により判明した課題の解決に向け、引き続き関連事業者との意見交換を実施するなど情報収集に努めます。	
	2 地域の課題解決につながる取組の推進	①散策ルートを再整備します ②(仮称)里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	①散策ルートの再整備 ・林野庁の交付金を活用して竹林の再生・整備に取り組む団体において、散策ルートの整備に向けた竹林の再生に着手しました。 ②環境の保全につながる事業の実施 ・「奈良ばい谷戸」において、田植えや稲刈り体験、さつま芋掘りやタケノコ掘りなどの体験イベントや里山の散策イベントを実施し、里山環境の再生や保全について学ぶ機会を提供しました。	○	・散策ルートの整備に向けて、団体の竹林の再生・整備の取組が継続できるよう、また、各団体が実施する事業が継続し、里山環境の持続可能な保全につながるよう、必要な支援を行います。	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行う	①散策ルートの再整備 ・地域の団体において散策ルートを整備し、散策者が安全に通行できる急斜面地への階段設置や支障となる竹木の除去を行いました。 ・里山を散策する人が安全に散策できるよう奈良ばい谷戸周辺において、ナラ枯れに対する樹木の伐採を行いました。 ②里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施 ・「フットバスツアー」+「お掃除大作戦」と称し、町内会や地域の公共施設管理者と協働し、里山の清掃活動を実施しました。 (重点事業2「地域・団体等と連携した取組」の再掲) ③環境の保全につながる事業の実施 ・「奈良ばい谷戸」において、田植えや稲刈り体験、さつま芋掘りやタケノコ掘りなどの体験イベントや里山の散策イベントを実施し、里山環境の再生や保全について学ぶ機会を提供しました。	○	・引き続き、地域住民や団体、企業と連携した取組を実施するとともに、必要な支援を行います。	
相原エリア	1 連携・協働の体制づくり	①地域の課題解決や里山の活用につながる体制づくりに取り組みます ②地域で活動する若い世代との連携・協働のしくみづくりに取り組みます	検討	・相原エリアで活動する団体や相原中央公園、大地沢青少年センターから現在の取組状況や今後の事業展開などについて確認しました。現在も様々な団体が連携・協働し、多くの事業が行われていることがわかりましたが、体制づくりの検討には至りませんでした。	△	・相原エリアで活動する団体等の取組について、引き続き情報の収集に努め、各団体の取組が継続できるよう必要な支援を行い、エリアの幅広いが世代が連携・協働できるしくみづくりに向け検討を進めます。	調整	・2023年度から新たに相原エリアの公共施設指定管理者となった団体および施設周辺の山林を所有する法人へのヒアリングを実施しました。東京都が保有する大戸緑地を含めた今後の連携について意見交換を行いました。	△	・引き続き、相原エリアにおける、里山環境の活用につながる体制作りに向け、指定管理者などとの意見交換を実施します。	
	2 多様な主体の連携による里山活用の推進	—	検討	・相原エリアの権現谷戸において、地域の団体に林野庁の交付金を活用支援を行い、竹林等の整備を行いました。 ・大地沢青少年センターにおいて、地域の団体などと連携し、間伐体験や竹細工作り、ハイキングコースの散策など、里山環境を活用した数多くのイベントを実施しました。特に、11月に実施した「たいけん&たんけん大地沢」には約800名の参加がありました。 ・相原中央公園において、地域団体と連携し、伐採した木竹を炭や竹酢液などに加工して販売しました。また、地域の小学校と連携し、シイタケの樽木づくりを実施しました。 ・相原中央公園において、近隣の美術大学と連携し、小学生以上を対象としたスケッチ教室を開催し14名の参加がありました。また、10月には相原中央公園芸術展を開催し2日間で延べ327名の来場がありました。	◎	・施設の管理者や大学、地域の団体等と連携し、里山資源の活用や里山に親むることができるイベントが継続して開催できるよう必要な支援を行い、里山環境の活用を推進します。	調整	・2022年度に引き続き、相原エリアの権現谷戸において、地域の団体に林野庁の交付金を活用支援を行い、竹林等の整備を行いました。 ・相原エリアの山林を所有する一般財団法人において、境川源流への散策通路の整備を行いました。また、地域の小学生を対象に林野体験学習を実施しました。 ・相原中央公園において、地域の小学生を対象に公園内の小枝を利用した鉛筆づくりや公園周辺の里山に自生する植物の観察などを行うイベントを実施しました。	○	・公共施設の指定管理者や団体、大学などが行う事業が継続できるよう必要な支援を行います。	
三輪エリア	1 地域の取組や魅力・価値を共有できる関係づくり	—	検討	・耕作が行われていない民有農地(約1,600㎡)を市内の社会福祉法人に斡旋しました。(2023年4月からの貸借を予定) ・三輪エリア内の「三輪緑地および周辺地」において、里山環境の再生や保全活動に取り組む団体からヒアリングを行い、現在の活動状況や課題を確認しましたが、地域の取組や魅力・価値を共有する関係づくりの検討には至りませんでした。	△	・三輪エリアで活動する団体の取組について、引き続き団体から情報の収集に努め、各団体が抱える課題の解決や取組が継続できるよう必要な支援を行い、エリアの魅力や価値を共有できる関係づくりに向け検討を進めます。	調整	・鶴川地区協議会と連携し、地域のみどり(里山)を知り、活動への参画につなげることを目的とした「鶴川里山勉強会」を実施しました。 (重点事業2「地域・団体等と連携した取組」の再掲) ・三輪エリアに所在する学校法人が所有する山林資源の活用について、事業者とともにヒアリングおよび現地確認を行いました。	○	・引き続き、地域や学校法人などと連携し、三輪エリアの里山を知る機会を提供します。	